

平成 2 9 年第 7 回
上小阿仁村議会定例会
会 議 録

平成 2 9 年 1 2 月 1 2 日 (開会)

平成 2 9 年 1 2 月 1 4 日 (閉会)

日程第4 一般質問

○議長（小林信） 日程第4 一般質問を行います。

○議長（小林信） 質問の通告がありますので、発言を許します。6番、大城戸ツヤ子君。

（6番 大城戸ツヤ子議員 一般質問席登壇）

○6番（大城戸ツヤ子） 集住型宿泊交流施設について、3点質問いたします。先ず、工事の進捗度について伺います。

この施設に関しては幾度とも協議を重ねてきました。8月28日には起工式が行われました。その時の資料には工期が7月15日から3月15日までとなっております。

この季節はとても寒く日没も早いので、夕方4時半ころになると暗くなってきて作業する皆さんはさぞかし難儀しているのではないかと勝手に想像しております。

工程表によると、拠点施設工事欄には、既に屋根、外装を経て12月は内部となっております。

この12月10日の日曜日、自動運転試乗のため、小沢田から福館間を何回か往復しましたが、見る限り屋根も見えず、外装もできているのか素人には中途半端の状態にしか見えませんでした。その都度、作業報告を管理者から受けていると思いますが、工事の進捗具合を教えてください。現在、全体の何%にあたりますか。

次に施設の使用料、利用料等の歳入・歳出について伺います。

この質問は6月定例会の一般質問でも伺いました。

その時の村長の回答では、これまでの説明は基本計画での数値なので、実施設計で見直したものを近隣の施設と比較し、利用料金に関する規則を作成し、議会へ相談していきたいとのことでしたが、これまでは、全員協議会を開催しての説明会はありませんでした。既に、6カ月が過ぎています。

当時、課長補佐がこんな説明しています。試算の案の段階ではあるが、収入では賃貸アパート光熱水費等を除き3万円、短期滞在については冬期間のみで光熱水道込みで月4万円。大部屋の貸し料金は数字が出ていません。学童保育の補助は247万円だそうで合計919万円です。

支出では施設管理人、消耗品費、燃料費、光熱水費、通信運搬費、施設の保険料、メンテナンスの委託料などで1,294万5千円です。差し引き、357万円の年間支出を見込んでいます。こんな算出方法で大丈夫でしょうか。

生涯学習センターの年間管理費は、約2,000万円です。この施設は約1,300万円。目的が違いますので簡単に比較することは無理な話ですが、生涯学習センターより、この施設の利用者の人口密度は高いと思っています。そうすると、

年間管理費は高くなるのではないのでしょうか。この程度の支出で収まるのでしょうか。

次に施設の運営方法について伺います。

施設の運営については再確認ですが、村直営ですね。5月中旬には庁内にプロジェクトチームを立ち上げたとのことですが、今まで何回話し合いをしましたか。また、秋田県市町村未来づくり協働プログラム上小阿仁プロジェクト委員を委嘱して運営方法について話し合いが行われておりますか。内容を詰めていると思いますので教えてください。

以上です。

○議長（小林信） 答弁を許します。村長、小林悦次君。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 集住型の宿泊交流施設について、3点のご質問にお答えをさせていただきたいと思います。

最初の工事の進捗状況になります。進捗状況につきましては、平成29年11月30日時点で、建築工事進捗状況は29.5%の予定に対して24.5%の実績となっております。5%ほどの遅れとなっております。この工事の遅れに対しましては、早急に取り戻しをさせていただきたいということで、打ち合わせを何回もさせていただいている状況であります。いずれ契約期間内に完成するようというふうなことで、毎回、工程会議等でお話をさせていただいている状況になります。

2番目の施設の使用料、利用料等のことにつきましては、使用料等につきましては、設置条例、それから管理運営規則、利用促進のための補助金交付要綱の案を今回の議会にお示しをさせていただいて、3月までには決定をさせていただきたいと、3月定例会で、議案を上程させていただきたいと考えております。

歳入につきましては、利用者、利用団体数により増減いたします。施設が安定運営できますようにさまざまな角度から周知をして利用者を獲得していきたいと考えております。

歳出につきましては、施設の新設備にかかる維持管理費の増加が見込まれております。村民をはじめ、たくさんの方に利用していただき、村に賑わいを創出する施設にしていきたいと考えておりますので、ご理解をいただきたいというふうに思います。

3番目の施設の運営方法につきましては、議員からお話があったとおり、村の直営を考えております。当面の間、この方法で対応していきたいというふうに考えております。

プロジェクトチームの会議の内容につきましては、7回ほど開催させていた

だきまして、その都度、内容を詰めさせていただいているという状況になりますので、よろしくご理解をいただきたいと思います。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） 今、お話を聞いてがっかりしています。もう平成27年の頃に、県にプレゼンする時には、こんなに立派に3万円とか、4万円とか、数字が出ているのに、あと3カ月後にPRしなければいけないのに、何にも決まっていない。ましてや、この議会の3日間の中で、そういう案を出すとか、こんなに4億1千万円の工事費を払い、立派な建物を、住民は全員は望んでいるかどうかは疑問ですけれども、でも、いざ、建ったらやっぱり応援しなければいけませんよ。村長は、また賑わいを、賑わいという言葉が好きで、どっからも人が集まって来るでしょうという第三者感覚でお話ししますけれど、やっぱりこの企画はもう既に進んでいなければいけませんよ。7回やったら、7回やった議事録があると思いますから、ぜひ、それは全協で示してください。

それから、プロジェクト、名前が長くて1回では読み上げられませんけれど、こういうプロジェクト委員も多分委嘱したんでしょう。だから、そういうことをちゃんと議会に説明しないと納得しません。多分、村長分かっていると思いますよ。413名の署名活動をしました。その思いはどういうふうに、激励ではないですよ。反対したんですよ。それをどう受け止めているか、そういう人達を納得させて、やっぱり、この建物には人を呼ばなきゃ、というふうな心を変えるような方向に展開していかないと、上小阿仁に立派な若者センターが建っています。この前、テレビで放映されていましたが、えっ、若者センターがあるって、若者がいるのかなあというくらいに放送されていましたが、そういう点どこから賑わいがあるというふうに感じているのか、私は、本当に甘いと思いますよ。だって、この3月に提案して、それで3月15日で完成しました。4月に、それで客を呼ぶ、それはおかしいでしょう。もっと早く行動しないと、私は、そういう意味では村長は413名の署名活動をして、真に受けて痛い目にあっているはずですが、学習の甲斐もなく後手後手に回っていて、議会軽視だと思いますけれども、如何ですか。お話いただきます。

○議長（小林信） 村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） まず、使用料の件につきましては、最終的には使用料決めるのは自治法上条例で制定しないといけないというふうなことになっております。それから、先ほど議員から言われた3万、4万円の話につきましては、これは、基本設計の段階で皆さん方にもご提示をさせていただいて、説明をしている数字であります。

ですから、当初の数字でそのままいけるのかどうか、できるだけより良い活

用方法を、村にとって将来的に良くなるような対応したいというふうなことで、ですから、今回の議会中に一応、プロジェクトチーム等で検討していただいた、いわゆる見直しの案を、議員の皆さん方に提示をさせていただきながら協議をさせていただきたいということで考えております。

署名運動等につきましては、いろんな内容が、要望があったと思います。本体そのものが反対、どうのこうのかということではなくて、その部分、部分についていろんなご提言なり、要望があったというふうに受け止めております。

そういう意味で、いわゆるご指摘のあった部分について、いろんな形で見直しをかけながら、皆さんに喜ばれる施設にしたいというふうなことで、これまで、議会の皆様方にもご相談をさせていただきながら対応してきた経緯がありますので、今後とも、いろんな形で議会の皆様、住民の皆様方からご指導、ご提言をいただきながら、できるだけ多くの人方に喜ばれるような施設にしたいということで対応させていただきたいと思っておりますので、よろしくご理解をいただきたいと思います。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6 番（大城戸ツヤ子） 今、賃貸のアパート代も、そういうことで決まらないということですが、今、住宅の空き家があります。それはやっぱり高いから、収入はドンドン上がる、この上小阿仁で3万円ぐらいいいけれど、収入が高くなると7万、8万もなる、そういうルールがありますから、それを変えなければいけないということもありますけれど、それは条例とか色々あるでしょう。しかし、上小阿仁で8万も出して生活するかというと、そこに疑問もありますので、ぜひ、こういうアパートの家賃、そういうのはしっかりと考えて決めていただきたいと思います。

それで、この建物について、村長は、こういうのを柱に掲げていますよね。多様な世代が集まる、交流する拠点、高齢者の見守り、支え合い体制に充実と強化、里山を活用した交流人口の拡大となっています。

このコンセプトを実現するために、企画から運営に至るまで、かなりのスタッフが必要と思いますが、どの位のスタッフで運営しようと思っておりますか。

教えてください。現時点で結構です。

○議長（小林信） 村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 集住型の運営につきましては、全職員、村上げて対応するというふうなことで、プロジェクトチームの委員についても、全部門から、それなりの対応をしていただいている。ですから、今後、それぞれに該当する部分について対応していくというふうなことになります。

例えば、高齢者については住民福祉課、若い人方、社会人等については教育

委員会もあるし産業課あると。いろんな形で横のつながりが出てくるというふうなことで、一部所で、もちろん中心になる部署はあるわけですが、皆で、全職員上げて施設を基盤にして、いろんな形で将来に賑わいが持てるようになるような、つながりを持てるようなものにしていきたいというふうなことで努力をさせていただきたいと思っております。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） 分かりました。

来年1月から3カ月間が本当にまとめる重要な期間かと思えます。この施設、外部へPRするのも大事です。後半に伊藤議員から具体的な質問がありますので、更なる的確なお答えを期待いたしまして、この質問は終了いたします。

○議長（小林信） 6番、大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） 次ですが、来年度、最終年度にあたりますが、予算編成に向けての主要施策について伺います。

来年度予算は村長として最終年度にあたります。

村長が考える重要施策は何でしょうか。それを、この1年をどのようにまとめるつもりですか、お知らせください。

○議長（小林信） 答弁を許します。村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 来年度の予算編成におきましては、予算編成会議をもちまして、その中で、編成方針を打ち出させていただいております。

上小阿仁村にとりましては、誰が見ても分かるとおり少子高齢化、人口減少の緩和をしなければならないというふうなことが大前提にあります。このために、いろんな形で予算編成をしていくということになります。

ただ、これをすべて来年度でやるというのは、なかなか難しいわけで、これまでも、毎年、毎年予算編成の中で主要な部分について対応をとってきた経緯があります。今回につきましても、平成30年度の村づくりの基本的な施策として、予算編成会議におきましては、とりあえず大きなものを3つ、指示をさせていただいております。

1つ目は、健康長寿であります。秋田県が10年後を目途に健康寿命日本一を掲げております。村は、秋田県一を目指しております。このために、具体的には毎日放送させていただいておりますラジオ体操をはじめとする運動の推進を掲げております。

それから食の部分であります。塩分を控え規則正しい食事をするにとしまして、禁煙をできればさせていただきたいということで考えております。加えて、健康診断への各種助成によりまして病気の早期発見、早期治療で健康長寿を目指したいということで、これについては、住民福祉課関係だけではなくて、い

ろんな課で、これに係わる施策を講ずるというふうなことで、指示を出させて
いただいております。

2つ目といたしましては、教育立村で、これまで村がここまで来ております。
これからも、その教育立村については力を入れさせていただきたい。そのため
に、来年度もいろんな形で対応を取らせていただきたい。将来を担う子ども達
のために、直接的なものと間接的に教育につながるもの若しくは子育てにつな
がるようなもの、というふうなことで、子育て世代に対する支援の両方に力を
入れさせていただきたいというふうなことで、これについては、新年度予算
については、今お話しているのかどうかあれですけども、例えば、他の町村
でもやられております子育て世代へのプレミアム商品券の関係、それから給食
費等の検討を、これからやらせていただきたいということで、議会の方には最
終的にまた相談をさせていただきたいと思っております。

大きな3つ目といたしましては、何と言っても人口減少、少子高齢化の部分
に係わる問題として雇用の拡大がどうしても出てきます。これを何とかして、
いろんな形で対応していきたいと、そのために、各方面の要望を、今回、何か
ひとつ切り口が必要だということで、当初から山を動かしたいというふうなこ
とでずっとやらせていただいております。今回、そういう意味で山林活用 100
年計画を策定したいというふうに思っております。

これにつきましては、林野庁から指定をいただきました山林成長産業化地域
モデル事業の広域的な事業実施、そして、先ほどお話をさせていただきました
集住型の宿泊交流拠点施設の活用などをきっかけにしまして、波及効果を求め
てまいりたいというふうに思っております。また、基幹産業である農業や林業
への支援はもとより、起業者、商工業者、新規事業者への支援や融資制度の充
実、無利子制度の活用により民間の経営を応援することで、雇用の拡大を推進
してまいりたいというふうに考えております。

ハード、ソフトの組み合わせによりまして、単年度予算の執行になりますけ
れども、5年、10年を見越した健康長寿と教育の充実、雇用拡大につながる取
組をさせていただきたいというふうに考えておりますので、よろしくご協力
をお願い申し上げたいと思います。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ君。

○6番（大城戸ツヤ子） 今、来年と1年間の施策を聞きました。しかし、現
在進行形が完成するのだろうということで、しっかり実践につながればいいか
なと思います。

でも、あまりにも心がこもっていない。例えば、健康長寿、健康長寿は1年、
2年、そう簡単にはできません。やっぱり、今ラジオ体操流しています。では、
実際にどれくらいの方が、朝、3時、やっているか。アンケートを取りましょ

うよ。あれを運動すると、実際、あっ、運動して健康になったような気はしているけれど、全体の村民2,000人、3,400人、その内の、赤ちゃん、そういう小中学生は別ですけど、住民に対する健康意識を高めるのだったら、アンケート調査しましょう。

それで実際、上小阿仁村の人達は、こういうふうにやっていますという数字も拾わないと、ただ、やっている、やっているではつながりません。それで、私、前回もわざわざ提案して、こういう体重計がありますよということもお願いしたのですが、或いは食生活ではこういうのを付けたらどうですかという提案をしましたけれど、健康推進部で企画しているのかどうか分かりませんが、そういうのが何一つ出てきませんでした。

禁煙、特に大きなのは、やっぱり村だと思います。村の職員がタバコを吸っています。それはストレスもあるからでしょう。しかし、では村でただ禁止すればいいということではない。やっぱりアンケートをとって、どういう意識を持っているのか、そういうことで大体1年、2年を目途にこういう方向へ行きたいというプランを立てないと、ただ禁煙します、禁煙しますと。また、ダーと1年続いていきますよ。私は、チョッと形式どおりの、健康についてはそうだなと、笛は吹いているけれども、太鼓を叩いているけれども、ついてくるのかなというふうに思いました。

それから教育、それは子育て世代、ぜひ進めてください。それで、給食費、それもぜひ考えましょう。

しかし、子育てはゼロ歳からずっと続きます。私は、保育園の給食、完全給食化をお願いしました。年間20万円ぐらい予算が増えます。しかし、理由は人がいない、はい、条件が悪い、はい、狭い。いろんなことを言って一步も進めようとしません。報告もありません。ですから、給食費、それをどう扱うのか分かりませんが、やっぱり、教育するのであったら食事ですよ。朝食、食べましょうという運動も進めていますので、やはり保育園の子ども達、それに温かいご飯を食べさせませんか。簡単に、どんぶり勘定的な発想で言いますと、温かいご飯、一升炊いていただければ、3歳以上の子ども達は熱いご飯、まあ、熱くなくてもいいですよ。そういうご飯が食べられます。夏には安心して、親が腐敗しないかしらということで心配しないことも出てきます。やはり、ぜひ、そういうのも考えてください。

それから、雇用拡大で山の件を話しました。私も、議員になった時、村長が「山が動けば人が動く、ひとが動けば経済が動く、経済が動けば雇用が生まれる」というフレーズに、本当に心動かされました。しかし、山は今1mmでも1cmでも動きませんでしたか。私は、この3年間、チョッとショックを受けています。それで山は動きません。

しかし、担当職員は3人も動きましたよ、この1年間で。先ず、職員をしっ
かり信じてじっくり定着させて、研修させることが大事です。特に、山に関し
は100年計画なのだから、職員は1年も2年も計画立てて実際に行かせるべき
ですよ。

私達議員が、この3年間、林業で成功させている自治体を回っています。で
すから、はっきり言って村長より林業に対しての知識は深まっているかもしれ
ません。それで、こうすればいいのか、ということで、皆、それぞれ意見は同
じです。ですから100年計画があるのだったら、1年間でもそういう先進地へ
行って、職員を育てるのです。そういうことをしないで、この前、100年計画
が議会で否決された。それで、今頃ですよ、山林関係者の方を呼んで趣旨説明
をして、それで意見を聞く、全く後手後手ではありませんか。

もうちょっと、やっぱり計画を持って貴方が行政辞めて、村長になると言っ
た時の覚悟、その時に、私は、やっぱり山のそういうことをやりたいというの
で、もう既に完成して、あっ、「こういうふうにやりたいです」って言うのを提
案するのかと思ったら、まあ、この3年間、あーでもない、こうでもない、と、
まっすぐでなく曲がっています。

ですから、そういうふうにもうちょっと住民の声を聞いたり、議会の声を聞
いたりして進んでみてはどうですか。

今まで、この3年間の中で座談会は1回やっています。それはこの集住型の
施設建てるために、ぜひ、住民に説明してくださいと、議会からお願いしたの
です。だから、そういうのがあって。しかし、これから1年以内に、自分の業
績を完成させるとすれば、もうちょっと住民を回って意見を聞いてやったらど
うでしょうか。如何ですか。

○議長（小林信） はい、村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 本当に貴重なご提言をいただきましたので、先ず健康づ
くり、子育て等について参考にさせていただいて、これから新年度予算に盛り
込めるものは盛り込んでいきたいというふうに考えております。

それから、雇用の部分についてだけ少しだけお話をさせていただきますと、
これにつきましては、いろんな順番があってやらせていただいた経緯がありま
す。山に関しては、少なくとも森林認証から始まりまして、とりあえず今、オ
リンピック、パラリンピックの国立競技場等への材の使用等につきましては注
文がきて、今対応している状況にあります。

それから、追加でまたその周辺の選手村に係る建物等についても、出来れば
というふうな欲しいという業者も来ておるわけですけれども、検討している最
中であります。

そして、アドバイザー等、林業アドバイザー等についても、やはりきちっとした形で決まってから説明会等をしたということ、今回の説明会に至っているところでもあります。そういう意味で、それらによる計画、要望を今回の山林成長産業化の協議会等で作る今年度の、いわゆるモデル計画に盛り込んでいくということで、その対応のために、今準備をしている最中でもあります。そういう意味では、段階を踏んで順番にやらせていただいている。

そして、村有林については、毎年、毎年皆伐をしてきた経緯がありますけれども、なかなか事業費と販売の部分について収支のバランス等も考えますと、これから、いろんなことを考えて対応していかないと、せっかく、これまで先人の方々が一生懸命苦勞して立派にした山林が無駄になってしまうというふうなことで、できるだけ村民にそれを還元するような形で対応ができるような、きちっとした計画をしたいということで、今、いろんな形で対応させていただいているという状況であります。

それから、住民の声を聞くための座談会、これについては議員の方から言われたとおり、確かに1回しかやっていないことがあります。これからも、将来のことを考える時に是非とも、議員から言われたような座談会等を活用しまして、いろんな形で住民の方々からご意見を聞くと、それを村の施策に繁栄をしていくということで、これから対応させていただきたいと思いますので、どうか、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） まあ、村長はいつも私が提案しますと、貴重な意見、ありがとうございましたと言いますが、何一つ私が提案しても実行されていないので、すごくむなしさを感じます。村長はどうですか。私の提案を表面的には受けているようですが、1つも実行していません。否定的な見方ばかりしているようで、私はもうチョット、私の提案は、住民の声を聞いた提案ですので、私の理想論は言っていない。ですから、それに耳を傾けて実行すると、村長の株があがるんですよ。

そういうことで、私は提案しているのですが、残念ながら、何かむなし日々をこういう提案した後に感じます。そして、個人的におびき出していろんなことがあつたりしますので、そういうことのないように、やっぱりお互いに提案したんですから、そうだねと言って、では、今、アンケートとっていますかって、例えば、健康教室に行った保健師さんに提案すればすぐできますよ。そういうことはできるけれど、どうしてやったほうがいいかということで模索するのでしょうか。だから、一歩も期待するコメントがなくて残念です。まして、教育立村と言う割には、こんなに米が豊富で、おいしいご飯がある。秋田の米は東京に送ると、おいしいご飯だって言ってくれるのに地元では、冷たいご飯

を子ども達に食べさせている。まあ、父兄たちは給食がこんなに国の指導、或いは県の指導、市町村の考えかたで動くのだということ知らないのです。ですから、そこは自由なのです。だから、来年度、ぜひ予算を組んでください。すると村長だって発表会へ行ったらきっと心、顔も緩んで、すごく気持ち良い発表会を見られることができると思いますよ。

ですから、私は来年、そういうふうになることを期待します。要するに子ども達が元気であれば、健康寿命につながります。10年後ですから、ぜひそういうもので、机上の論理だけでは進めないでください。

以上です。お答えいりません。

○議長（小林信） 6番、大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） 職員の意識改革について2点質問いたします。

村長の公約には、職員の意識改革を上げています。少子高齢化が進む中で、村民の生活や村を支えていくのは役場職員だと思います。

平成26年1月10日発行第149号「議会だより みどり」を開いてみますと、年頭に当たってというタイトルで、ご逝去されました前武石善治議長の挨拶の中で、強いリーダーシップについてコメントしております。「強いリーダーシップよりもフォロー（ついていく）が大事である。どんなに優れた指導者でもリーダーの力は2割、フォロー、ついていく方が8割だと言います。単に村長に従うのではなく、副村長さんを先頭に自発的に自分の役割を果たす、役場職員は単なるサラリーマンではなく、村の未来を担う貴重な、また、村長をフォローする人材であることについて自覚を持つこと」と述べています。ということで伺いたいのですが、行政職40年、村長は勉強することが大好きなようで、各会議の中でも「勉強させてもらっています」とおっしゃいますが、対外研修から学んだことを職員にはどのように活かしていますか。教えてください。

次に日常業務のスピード感について伺います。

一般に「1年の計は元旦にあり」と言われております。自治体はの1年は4月1日から翌年3月31日までの期間だと思います。

計画を立てるに当たっては、1年、5年、10年、50年、そして100年という考え方が基本でしょうか。例えば、1年間の行事を開催するにあたっての通知、案内等は基本的に何日以内に知らせるという決まりがありますか。

また、この3月議会で予算が通った例です。住民福祉課で企画されたと思うのですが、各集落サロン20万円。これについては、行政報告がありました。しかし、この件での説明は9月、見学会は11月でした。今まで健康教室が中心となって、月1回やっていますが、これが集落サロンに横滑りするするのだと思いますけれども、もう1年のうちで4分の3、9カ月が過ぎました。集落サロン費が入ると器具を買い、今度は器具を借りに行かなくても良いという婦人会の役

員の皆さんが喜んでいましたが、今年中に入金されるのでしょうか。今年度もあと3カ月で終了します。スピード感が見えません。

行政の企画に当たって PDCA、計画・実施・評価・改善のプロセスを取り組むようにすると、どこかに問題があるのか見えてくるはずですが、スピード感を期待しますが、如何でしょうか。教えてください。

○議長（小林信） 村長、答弁を許します。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 職員の意識改革につきまして、というふうなことであります。

村長の対外研修から学んだことは活かされておりますかということで、いろんな形で私の場合は、まず、勉強させていただかないとなかなか村をいい方向に持っていけないのではないかとということで、いろんな形でいろんな所に歩かせていただきまして、勉強させていただいている状況であります。

そのために、いろんな方々からご指導、ご支援をいただいております、そういう人方がいろんな形で増えていくというふうな状況に対し本当に感謝をしているところであります。いろんな人のご意見を聞いて上小阿仁村に適合するところを検討させていただいて、村の将来につながるようというふうなことで施策を進めさせていただいている状況であります。

これにつきましては、先ほどお話をさせていただいたとおり、すぐに効果に現われるものと、5年、10年後に目に見えてくるものが必ずあるというふうに思っております。そういう意味で、対外研修につきましては人と人とのつながりが大切であると思っております。

研修の内容もさることながら講師の先生や、例えば事業要望等の相手などとのつながりによりまして村に必要とする先駆的な事業の視点につながるものが出てくるというふうに期待をしているところであります。

そういう意味では、その状況は毎年村の総合計画である過疎計画の見直しをさせていただいている状況でありますし、それに基づいて予算の作成、予算の執行をさせていただいているということでもあります。

研修につきましては、私1人で勉強するというにはならないというふうに思っております、先日、少しだけ私もまた若い人方から教えていただきたいということで、若い職員との早朝の勉強会を開催させていただきまして、接遇や重要施策、それから歳入歳出についてのお互いの理解を深め合ったという状況であります。

若い人、皆さんそれぞれにいろんな考えを持っておられまして、職務に臨んでおられるというふうに思っております。そういう意味では、私も大変勉強になりましたし、そういうことが住民サービスの向上につながっていくものとい

うふうに思っておりますし、研修等につきましては、私だけではなくて課長等には最低一月に1回は国、県の方に顔を出すようにと指示をさせていただいております。それによって、村を知っていただきながら情報収集をしてくると、それによって村に当てはまるようないろいろな事業を持ってこられるということ、それから課長が国、県の人方と顔見知りになることによって、いろいろなつながりが出てくると、それによっていろいろな将来につながるものとなるというふうに考えて一生懸命やらせていただいている状況であります。

それから、日常業務のスピード感につきましては、ご指摘のとおりいろんな部門でスピード感の少ないものがあるというふうに感じております。

そういうことにつきましては、住民サービスのために、いつも何回か伊藤敏夫議員からも指摘をしていただいておりますけれども、日常業務遂行の基本である、いわゆる報告、連絡、相談の、いわゆる「ホウ・レン・ソウ」を的確に行うことを徹底させることでスピードアップを図ってまいりたいというふうに思っております。

何回も課長会議等も含めて徹底をしているわけでありましてけれども、なかなかまい具合にいけないという状況につきましては、今後ともいろんな形で、それがやれるようなことを対応していきたいと考えております。

よろしくお願いを申し上げます。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） やー、あまり期待していない回答、チョットとショックを受けていますけれども、私は、村長はもう誰よりも行政経験が豊かなのです。40年。いまさら村長自らあっちの研修、こっち研修受けてどうなんでしょうと、前村長の時に、ある議員が、村長さん、もっと外へ行って外交をすすめてくださいと言ったら、いや、今は情報が一杯で、インターネットで検索するとどこでも行ったようにチェックできますから、もう村でそういういろんな政策を考えることができますっていう、そういう村長さんの回答がありました。

しかし、うちの方の今の村長は、もう本当に研修に行きます。それは多分自費でないでしょう。私は、議員になって浅いので、もうチョットと知識とかいろんなのを習得したいために、やっぱり私もセミナーを受けて自費で東京に行っていますよ。ですから、そういう意味で経験豊かな人が、今更、研修でないでしょう。だって、これをやりたいから或いは課長とか、そういう職員だったからできないから、やりたいという意味で立候補したのだと思うのです。それで今更研修っていうのはどうかな、と考えて、私の答えに何もまともな答えをしなくてもいいから残念です。

それから、通知、何日くらいに基本的に出すのですか。例えば、保育園行事だって1カ月くらいに出てきます。しかし、役場のここの中だと1週間、3日

前、それで返事もらう、そういうので、住民だって皆忙しいですよ。それをどこを中心にそういう案内を出しているのか、ということです。

それは、話さなくたって分かるでしょう。それは村長の決済がないから動かないのですか。どこに、そういう業務が溜まっているのでしょうか。私は、本当に疑問に思っています。本当にスピード感あって欲しいです。それで、今聞こうと思って、次の段階で質問しようと思ったから、広報の今月 12 月号広報 707 号拝読いたしました。その時に、村長の日誌抄のページがありまして、それは回を重ねることに今回で 21 回目です。そして、今月号に若い職員たちと朝の勉強会の様子が書かれておりました。多分、今お話があったように職員の意識改革のための行動だったのでしょうけれど、それは職員の感想は一言も触れず、まあ、1 時間余り村長自身はパワーとアイデアをいだいて、前向きの姿勢で書いてあります。

それで、私感じているのは、この村長の日誌抄というのは、多分村長の哲学だったと思うのです。だから日誌だから何書いてもいいと思います。それを見せなければですね。しかし、これが広報に載せると、もう村内だけでなく、村外、インターネットでも、もう検索できるのです。そして、皆共有できるのです。その中で今回だけは、私、チョッと考えちゃいました。皆さんもう読んだかもしれないでしょうけれど、私の読解力がないからでしょうか、消化不良を起こしています。タイトルに「いいウンコ」、この綺麗な神聖な議会で、こんなことを言わなければいけないかと思うと、チョッとショックなのですけれども、内容的にも表現的にも疑問を感じました。私は、やっぱりもうチョッと、この広報上小阿仁、そして村長自身のこういう哲学に対して、そして、この広報を若い職員から意見を聞いたことがありますか。或いは住民皆さんはどう思っているのでしょうか。私は、どうもこれは、職員の意識改革にはつながらないと思うのですよ。村長、如何ですか。お答えいただきます。

○議長（小林信） はい、村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） まず 1 点目になりますけれども、研修につきましては、当初、就任をさせていただいた時に一生懸命議会からは、貴方は勉強してきなさいと何回も言われまして、研修に行きなさい、研修に行きなさいというふうに言われました。そして、私の行っている研修は首長研修でありまして、アカデミーという千葉にあります市町村アカデミーであります。これには、私は行かせていただいております。これは本当に有名な、著名な講師の先生が、本当に聞けないような先生からお話を聞く機会があります。

そして、これに係る費用につきましては、最終的には戻ってきます。ですから、費用があまり掛かっていない研修であります。ある町長さんからも、この

研修だけは時間があつたら必ず出なさいと、勉強しなさいというふうに言われました。そしてその町長は、1年間の日程が届くと、それをもう最初に入れてしまっていると、ですから、そこの研修期間以外のところに行事を入れていくというふうなことまで、私に指導していただきましたので、私もできるだけ研修が受けられる時は受けたいと思っているのが、このアカデミーの研修の1つであります。

もう1つ、私の行っている研修は、町村長方か必ず年に1回行っている研修、この2種類だと思っております。それ以外の部分については、国、県への陳情、要望等で歩かせていただいているものでありまして、何とでもこの地域、上小阿仁村にとって重要な事業について、何とか承認いただくように、決定していただくようにというお願いで一生懸命歩かせていただいているものであります。

それから、村長日誌抄につきましては、本当に購読していただきましてありがとうございます。

こんなに一生懸命読んでいる方がおられるということで、本当に良かったなあと思っております。これについてもいろいろな方々から指導がありまして、村長の考えかたを村民の方々に、やはり分かっていただかないと、いろんな形でご指導、ご提案が貰えなくなるというふうなことがあります。できるだけ私の正直な気持ち、そして正直な考え方を住民の方々にお伝えをしたいということで、そういう意味ではいろんな方々から勉強しなさいということで、本も一生懸命この本を読みなさい、あの本を読みなさいということで、わざわざ持ってきてくれます。ですから、それを読みながら、たまたま先ほど議員から言われた内容につきましては、ある本に書かれておったものを少し書かせていただいたものであります。すごく感銘を受けたものですから、是非とも皆さん方に知っておいてもらいたいなと思って書かせていただきましたので、よろしくご理解をいただきたいと思っております。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6番（大城戸ツヤ子） まさか、私が何かこうやってあげた途端に喜ばれるとは、別方向へ進んでいきましてもうびっくりしていますけれど、まあ、内容によりけりだと思いますので、そこら付近はやっぱり考えて、日誌を公開するのでしたら考えた方がいいのではないですか。と思います。

それから、研修の件では分かりました。しかし、それは職員に還元してください。

それでもう1つお聞きしたいのですが、12月10日に、秋田魁新報に秋田元気ムラ GDB ビジネス設立の記事が掲載されています。これは南沢集落元気ムラも構成メンバーなんですけれど、これはもう10月25日にいろいろこういふ

うにメンバーが集まりして私も参加しました。

秋田県のそういう北は大館、県南は横手、そちらの方から集まって、千葉県柏市にあるスーパーの社長さんとか、或いは県の支援担当者の方たちが来て、いかにもものを売るかということで頑張っています。ですから、私は、さつき村長もお話していましたが、こういうところにぜひ職員を派遣してください。県の支援室、上小阿仁村が顔を出してくれるのをはっきり言って本当に待っています。南沢のそういう人達が頑張っているのでも県でも応援したい。ですから、ぜひ、村も来てください。担当者来てくださると、私は常に日頃言われています。そこに若い人を派遣して、行かせて売るということはどういうことなのか、そういうところにヒントがあると思います。ただ、机でなんかパソコンした人に、それも大事です。しかし、苦勞して頑張っている姿を目の当たりに若い職員に研修させないと身につけません。

ですから、担当者に行って来いよではなくて、やっぱりそういうのを企画させて、こういうふう元気ムラで頑張っているところとやりたいという、そういう指導力が必要だと思うのです。

それ、村長はどう思いますか。今、元気ムラは、村の支援を受けなくても頑張っています。1人で動いています。でも、その影には県があります。ですから、村を置き去りにして頑張っていますから、村長は大海とか、何とか見習って頑張りたいと言っていますけれども、口だけで何か行動が伴いませんので、ぜひ、この集落へ行って、職員を派遣させて勉強させていただくのは如何でしょうか。

○議長（小林信） はい、村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 元気ムラにつきましては、当初、南沢、不動羅、中茂、八木沢というふうなことでスタートさせていただいて、今、一生懸命南沢が頑張っているという状況であります。

経緯につきましては、ご存知だと思うんですけども、ご存じない方もおられると思いますので、少しだけお話させていただきますと、東成瀬村との交流から始まりまして、いわゆる重箱交流というふうな形で交流が始まりして、その後、県がいろんな形で、その事業を拡大していきたいということで、その地域にあるものをスーパーの方に出荷をするということで、今、ミョウガとくるみを出荷をしながら対応しているという状況であります。その後また、いろんな形でその運動が拡大しておりますので、それに付いていくような対応を職員にやらせたいというふう考えております。

そして、先ほど議員からお話があったとおり、やはり南沢だけではなくて、それ以外の集落におきましてもやれる集落が必ずありますので、それがドンド

ン広がっていけば村全体の活動、運動に、事業になるのではないかというふう
に期待しておりますので、今後ともご支援、ご指導をいただくようお願いを
申し上げたいと思います。

○議長（小林信） 大城戸ツヤ子君。

○6 番（大城戸ツヤ子） 職員が自信をもって進める環境づくりに徹してくだ
さい。

以上です。ありがとうございます。

○議長（小林信） 以上をもって、大城戸ツヤ子君の質問を終了いたします。